

上高野だより

平成28年3月特別号（学校評価）

ホームページ 検索→「上高野小学校」

京都市立上高野小学校 校長 前谷 康孝

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamitakano-s/>

TEL (075) 701-3995 FAX (075) 711-1990

7月に続き、12月の学校評価へのご協力、ありがとうございました。『保護者による学校評価』、『児童による学校生活のアンケート』、『教職員の自己評価』の集計結果がまとまりましたので、皆様にお知らせいたします。『保護者による学校評価』では、質問項目に対して「重要度」「実現度」の二項目でお答えいただきました。『児童による学校生活のアンケート』では、規範意識や日常生活に関する質問項目に重点を置いています。また、『教職員の自己評価』では、日常の学校生活や家庭との連携、学校運営への参画等について実現度を自己評価しました。

今回は273名の回答をいただきました。皆様からいただきましたご意見については、真摯に受け止め、本校の教育活動に生かしていきたいと考えます。今回実施しました3つのアンケートの集計結果とそこから見えてくる課題について、過日行われました学校運営協議会理事会で討議していただきました。

今回、理事会で出されましたご意見や上高野小学校の今後の課題を保護者の皆様にお知らせするとともに、課題解決に向けて学校・保護者・地域の方々が連携を図り、協力して上高野小学校教育のさらなる充実を目指していきたいと思っております。

なお、『保護者による学校評価』と『児童による学校生活のアンケート』『教職員の自己評価』の集計結果は裏面に掲載いたしましたのでご覧ください。

理事会での討議内容

【学校からの分析と説明・改善点】

- ・「授業中は人の話をしっかりと聞いていますか」という児童に対する質問では、前回とほぼ変わらない結果となった。「しっかりと聞く」ということを具体的に指導しなければならないと感じる。例えば何かをしながら聞くのではなく、話している人のほうを見て聞くことが大切であることやなぜそうすべきなのかという基本的な指導を行い、継続して指導を行うことが必要である。
- ・「授業中はよく発表しますか」という質問では、教職員は「積極的に挙手し、授業に参加しているか」という目で評価しているが、児童の中には「挙手しているが指名されない。だから発表できていない」という意味に捉えてC、D評価にチェックをしている子もいるようだという意見が出た。質問の仕方についても改善が必要。
- ・夏から校内整備を進め、各教科の教具などを使いやすいようにすることができた。
- ・児童の挨拶に関しては依然課題として挙がった。教職員が見本となるように今まで以上に高い意識をもって挨拶していく。
- ・児童に対する「学校は楽しいですか」という質問には、概ねA、B評価であるが、D評価をつけている児童も2%いる。100%の児童がA、B評価をつけるよう教職員は尽力すべき。

【理事の方々からのご意見（要約）】

- ・6年生にもなると受験や友達関係のストレスが増え、学校生活にもひずみが生じるのではないかと。そういった児童の心の変化を早期に発見し、手立てをうつことが大切。
- ・塾に通っている児童にも関心をもたせることができるような授業の展開を引き続き行ってほしい。
- ・各設問に対して複数のC、D評価をつけている児童・保護者は同一かもしれない。その要因をつきとめ、不安を取り除き、肯定的な回答に改善されるよう働きかけることが必要。
- ・学校であったことを話す子もいれば、そうでない子もいる。ホームページを見ると学校での出来事がわかるので、話すきっかけになればいいと思う。
- ・子どもたちの家庭での基本的生活習慣の確立（テレビやゲームの時間を決める、寝る時刻・起きる時刻を決めて守っている等）は保護者の協力なくしてはできない。学校からの積極的な働きかけで改善できれば。
- ・登校時は地域の協力も得られて見守ることができているが、下校時に関しても安全管理が必要ではないか。学校での指導だけではなく、実際に立つ体制ができれば良い。
- ・子ども風土記を活用し、地域を知り、愛する心情を育ててほしい。

日頃は上高野小学校の教育活動にご理解・ご支援いただきありがとうございます。また、平成27年度後期学校評価にご協力いただき、真摯なご意見を頂戴したことに感謝しております。

さて、今年度は学校教育目標の重要項目として“Can から Do へ”と言う一文を加えました。このことは“できる”だけでは意味がない、“やりきる”ことを目標とする”と考えての事です。つまり我々教職員のスタンスとしては、学校評価の各項目の中にはたとえ少数でも、“C”あるいは“D”を選んでいる評価者がいる限り、それぞれの取組は達成できていないと考えています。ひとり一人の子ども達が置かれている現状をしっかりと把握し、短期的・長期的課題克服に向けて取り組む。阻害する要因があれば、児童・保護者と共に考え解決に向けて協力していく。そして、成功(解決)をとともに喜び合う。地道かも知れませんが、これらの取組が小学校教育の原点であり、“やりきる”ことの本当の意味だと考えています。その意味でも、今回の結果は「道半ば」ととらえていると同時に、これらの取組は保護者の皆さんとともに進めていくことだとも考えています。子どもを真ん中において、保護者と教職員がともに悩み、解決を模索していく、そんな活動の実現を目指して今後とも努力していきたいと思っております。今年度の反省を真摯にとらえ、新しい平成28年度の教育活動を展開していきたいと考えておりますので、どうぞ今後ともご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

上高野小学校 学校長 前谷 康孝

